

畿央大学後援会だより

発行：畿央大学後援会
2019年9月2日
第22号



ご挨拶

畿央大学後援会 会長
岡崎 亜矢子

会員の皆様におかれましては、日頃より後援会の活動につきましてご理解ご協力を賜り、感謝申し上げます。

最近、「学ぶ」ということの意味を考える機会がありました。

私が読んだ本に、「育つこと、学ぶこと」とは、「力をあらたに身につけ、その身につけた力を使って、あらたな世界を広げること」と書かれていました。

「歩く力が身につくと、その力を使って歩行の世界が広がる」、「話し聞く力が身につくと、その力を使ってコミュニケーション（関係）の世界が広がる」、「文字の力が身につくと、その力を使って、読み書きの世界が広がる」ということでした。どれも当たり前のことかもしれませんが、学び育つことで世界が広がるという教育の本質、そこに喜びや感動が生まれるから、さらに育つエネルギーになるということを再認識した一瞬でした。

「人生100年時代」という言葉が注目されています。これまでの人生設計は「20年学び、40年働き、20年休む」という「教育・仕事・老後」の3段階が一般的でありましたが、100歳まで生きることが一般化する社会では、年齢による区切りがなくなり、学び直しや転職、長期休暇の取得など人生の選択肢が多様化すると予想されています。

また、ある海外の研究では、2007年に日本で生まれた子供の半数が107歳より長く生きると推計されています。

100年という長い期間をより充実したものにするためには、幼児教育から小・中・高等学校教育、大学教育、更には社会人の学び直しに至るまで、生涯にわたる学習が重要です。

保護者代表として、後援会の役員の皆様方と共に、学生の可能性を最大限に、「生涯にわたる学習」へつなぐお手伝いができればと考えております。

また、家庭との連絡を密にして、会員相互の親睦を図るなどの環境づくりも進めてまいりたいと考えております。

今後とも、後援会活動への皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

ご挨拶

学校法人冬木学園 理事長
畿央大学 学 長
冬木 正彦



後援会の皆様には、本学の教育研究活動に対し大きなご支援とご協力をいただいていることを心よりお礼申し上げます。

大学時代はご子息ご息女の人生にとって極めて大切な期間です。物事を深く考えることができる時間と、幅広い知識、文化や歴史を含め地球上の人類の活動の広がりを知ることができる機会があります。専門分野の知識と実践技術の修得と豊かな教養を身に付ける過程の中で、自ら学び・考え・判断できる、将来にわたり社会を生き抜く力を培っていただきたいと思います。

現代社会は人類が今までに経験したことがないような急激なスピードで変化しています。大学教育は文系・理系を問わず、人工知能（AI）・数理・データサイエンスの基本的素養を求められる方向に動きつつあります。基本的素養とは、統計学の基本的理解と情報通信技術（ICT）の活用能力です。

本学では、5年前からタブレット型ノートパソコンを配布し、ICT活用能力の育成を目的とする教育を実施し、日本の中でも高く評価される成果を挙げています。今後求められる統計学の基本的理解の促進についても、各学科でのニーズも踏まえ展開することを考えています。学生が「なぜか」という疑問を持ちながら楽しく学べるようなテーマを授業や演習で設定し、真の理解が得られるようにしたいと考えます。

大学時代の間にAI利用では本来的にできないことへの気付きと、人間のもつ知性や感性への関心が芽生え深まることを期待しています。そして建学の精神、「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」をより深く理解し人格形成に繋げていただきたいと思います。

後援会からご支援をいただいております各種の助成は学生の学びへの動機を高めることに直接つながっています。そして綺麗な学習環境の整備にとっても不可欠であります。後援会の皆様には重ねてお礼を申し上げるとともに引き続きご支援をお願い申し上げます。

CONTENTS

ご挨拶.....P 1・2

保護者懇談会・後援会総会.....P 2・3

講演会要旨

「日本語コミュニケーション」から考える

「英語コミュニケーション」の在り方

教育学部現代教育学科 准教授 深田 将揮.....P 4・5

学科のページ

健康科学部 理学療法学科.....P 6

看護医療学科.....P 7

健康栄養学科.....P 8

人間環境デザイン学科.....P 9

教育学部 現代教育学科.....P10

担任からのメッセージ.....P11~14

アンケートへのご協力ありがとうございました.....P15

第17回畿央祭・授業日カレンダー.....P16



大学生の 受講態度とマナー

健康科学部長
健康科学研究科長
臨床細胞学別科長

植田 政嗣

後援会会員の皆様からは、日頃より畿央大学の教育活動に対し、深いご理解と多大なご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

大学の講義において、1コマ90分の授業を効果的に演出するには、教員の入念な準備と授業中の表現力が重要であることは言うまでもありません。一方、大学の授業改善のために、担当教員に対する受講生の評価を求めることは、教員の自己点検活動としても必須であります。そのためには学生の授業への能動的な参加が不可欠ですので、学生自身の受講態度が十分に形成されていることが前提となります。ところが、特に大教室における多人数を対象とした講義形式では、しばしば私語が目立ち、授業開始時の喧騒から短時間に授業秩序の確立までもっていくことに四苦八苦することが往々にしてあります。また、私語がなくても、平気でスマホをいじったり、内職や居眠りをしたり、一部の女子学生では化粧に余念がないといった光景が日常的にみられます。

これは、何時間もかけて講義ノートや配布資料を準備した教師の側からすれば許しがたい受講態度と映るかもしれません。教える側にとって、自分が教えている内容に価値を見出さない学生の姿は許しがたいものでしょう。しかし、学生からみれば、講師の授業がつまらないから集中して聞けず気がおこらないのかもしれませんが。相手に自分の知識を伝えるだけでよければ、本やネットで十分であり、対面式の講義では、学生に学ぶことの意義を悟らせ、成長の実感を与えることが、講師の務めであるとも言えます。もちろん成長するかどうかは、受講者本人の問題ですが、講義内容が自分の成長にどのように結びつくのかを考えさせる機会をしっかりと提供することが、講師の努めでありましょう。

効果的な授業を展開するためには、学生側にも一定のマナーと節度を守って頂く必要があります。また、教員側も学生との対話を心がけ、アニメーションや動画を多用するなど、学生の興味を喚起するための工夫を怠らないことが求められます。厳しいルールを設けて強制的に受講態度を是正するのではなく、教員と学生が互いに良識ある大人同士として接し、協力して学習効果をあげることが、何よりも大切であると感じております。どうか今後とも会員各位のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

学ぶことと 考えること

教育学部長
教育学研究科長

前平 泰志



後援会の皆様には、常日頃より暖かいご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

ある学生が、どうすれば立派な先生になれるのでしょうか、と私に真剣な顔で尋ねに来たことがありました。

御承知のように、本学は、「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」というすぐれた建学の精神を基本に教育が行われています。創立者の冬木智子先生は、人間としての完成された理想像を、＜徳＞・＜知＞・＜美＞という言葉に託して描かれたのだらうと、私は思っております。

とはいえ、学生にとっては、抽象的すぎて自分には疎遠なものと思う者がいることも想像に難くありません。

立派な先生や立派な人間になるための回答を私は今なお持ちあわせていないので、私が学生にしたことは、答える代わりに『論語』の有名な一節を唱えることだけでした。

「子の曰（のたま）わく、学んで思わざるは則（すなわ）ちくらし。思うて学ばざればすなわち殆（あやう）し。」

＜徳＞や＜知＞や＜美＞は、ある部分までは学ぶことはできるでしょうが、考えることをしなければ、知識や技術の部分で止まってしまう。同様に、自分で学ばずに物事を考えるだけでは独りよがりになったり、堂々巡りをしてしまったりして袋小路から抜け出られないかもしれません。

考えて、考えて、袋小路に陥ったときには、また学ぶことに戻ってくることも必要なのです。本学の学生には、学ぶことと考えることをバランスよく結びつけて、豊かな教養に裏打ちされた創造力と想像力に富んだ人になってほしいと願っています。そのときこそ、＜徳＞と＜知＞と＜美＞が上手く調和された人になっているのではないのでしょうか。



第14回 保護者懇談会を開催しました。

7月6日（土）午後1時より保護者懇談会が開催されました。今年で14回目を迎えた保護者懇談会は、暑いなか全国各地から約360名の保護者様にご参加いただきました。

全体会に先立って行なわれた個別相談会では、保護者の皆様から成績や進路に関すること、学校での様子など、さまざまなご相談をいただき、担任との面談を行いました。

冬木記念ホールで行なわれた全体会では

冒頭に冬木学長、新後援会副会長よりご挨拶があり、引き続いて、教育学部現代教育学科の深田将揮准教授による講演『「日本語

コミュニケーション」から考える「英語コミュニケーション」の在り方』をお話し頂きました（講演要旨は4、5頁をご参照く



ださい。参加者からは、「とても分かりやすく楽しい講演でした。早速、これから実践してみたい内容がいっぱいでした。」「英語と日本語の違いを改めて認識出来た。日本語会話の中で英語力を向上させる方法は非常に参考になりました。」「日頃の会話であいまいな返事・言葉が多いことに気付かされた。英語の会話のように相手にわかりやすく、はっきりとしたことばで伝えていくことの大切さを学びました。」「なるほど」と思わせてくれる事が多々あった。改めて考えさせられる。よし悪しではないが、言葉の持つ奥の深さを考えさせられました。」「英語コミュニケーションにも大切な



ことは日本語コミュニケーションにも大切だと思った。近ごろは会話一言だけになることが多いので、5W1H+Iを心にとどめて会話しようと思います。」など、たくさんの感想をいただきました。

全体会及び後援会総会の後は学科別に分かれ、学科説明会を開催しました。各学科の教員から学修内容や普段の学生生活についての説明を行ない、「理学療法士について漠然としか分らなかったが、今日話を聞いてとても奥の深い職業だなと思いました。」「カリキュラムの詳細や進路について大変丁寧な説明があり、理解が深まりました。施設の見学も参考になりました。」「教授対策が充実しているのはとてもありがたいです。1年生～4年生までの流れも分かり易く示していただき見通しが持てました。また今回の個別相談でも担任の先生から事前に連絡をいただき対応してもらいましたが、1人1人の学生をよく見てくださるのがうれしいです。」などの感想を頂きました。



学科別説明会のあとは、それぞれの学科が使用する実習室・実験室などをご覧頂きながら懇親会が開かれるカトリック食堂に移動しました。

懇親会では、保護者の皆様同士や保護者と教職員との交流を深めました。この時間にも大学生活のことなど、色々な情報交換が行われていました。

保護者の皆様からのご意見を参考に、来年度の保護者懇談会を企画してまいります。また秋の畿央祭では、例年実施しています保護者向けの一般企業就職や教員採用試験の状況の説明会も予定しています。

これからも、多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。

2019年度

後援会総会を開催

保護者懇談会の全体会において、畿央大学後援会総会を開催しました。

総会では、後援会役員会にて検討された議案について審議を行いました。まず、2019年度の事業報告と決算報告を行い、監査報告のあと、2018年度事業と決算が承認されました。

2019年度 畿央大学後援会役員

役職	役員氏名	学生の所属等
会長	岡崎 亜矢子	現代教育学科3年生
副会長	新 昌弘	人間環境デザイン学科3年生
副会長	兒島 強	現代教育学科2年生
会計	横田 和美	現代教育学科2年生
会計	小松 美佐	学生支援センター職員
書記	豊田 崇晴	看護医療学科2年生
書記	山本 泰	学生支援センター職員
委員	高下 一志	理学療法学科4年生
委員	福本 ゆみ	現代教育学科4年生
委員	青山 英一	現代教育学科4年生
委員	泉岡 美亜	看護医療学科3年生
委員	安井 哲也	看護医療学科2年生
委員	岡本 典子	現代教育学科1年生
委員	井上 亜希子	現代教育学科1年生
委員	横田 理恵	理学療法学科1年生
委員	田中 幸恵	看護医療学科1年生
監事	奥村 紀一	現代教育学科3年生
監事	清水 久美	健康栄養学科2年生
顧問	冬木 正彦	畿央大学 学長
顧問	植田 政嗣	健康科学部 学部長
顧問	前平 泰志	教育学部 学部長

次に、2019年度事業計画、予算案が審議されました。2019年度事業計画では、後援会として実施する事業が提案されました。

2019年度予算では、学校行事助成費の卒業関連費や畿央祭の助成を増額しています。また、教育活動費では、人間環境デザイン学科で新たに海外インターンシップを行うことをうけ、海外研修奨励金についても増



額を提案し承認されました。



施設・設備助成では後援会の事業として進めているキャンパスの学内緑化事業と施設の補充について後援会として積極的にすすめることなど、今年度の特徴が説明されました。2019年度事業計画・予算案は審議の上、承認されました。

役員の改選では、18名の役員様と3名の顧問が承認されました。本年度の役員様は別表のとおりです。

※保護者アンケートでは役員の選出についてもご質問をいただいております。後援会役員に興味・ご関心のおありの方は畿央大学学生支援センターまで遠慮なくお問い合わせください。

畿央大学後援会とは

畿央大学後援会は、畿央大学の学生の父母または保証人をもって構成される団体です。学生の教育や厚生に必要な施設設備の充実、研究活動やクラブ活動などに必要な援助を行うことによって子どもたちの学生生活の充実と畿央大学の発展に貢献することを目的としています。また、会員相互の連携をすすめるとともに大学と父母または保証人をつなぐ役割を担って、保護者懇談会や広報の取り組みをすすめます。

『「日本語コミュニケーション」から考える「英語コミュニケーション」の在り方』

教育学部現代教育学科 准教授 深田 将揮



本日は「日本語コミュニケーション」から考える「英語コミュニケーションの在り方」というテーマでお話をさせていただきます。

日本を取り巻く英語教育環境

小学校では、来年度より3・4年生の外国語活動が始まり、5・6年生では英語が科目に加わります。中学校では、英語で英語の授業を行う事が基本となります。従来の文法や日本語訳といった授業から、英語を用いて何が出来る様になったかというような授業を目指すこととなります。また昨今のニュースにあるように大学入試センター試験がいよいよ無くなり、英語については民間の外部試験を使うこととなります。高校生が身に付けるべき語彙の総数は大体3000語ぐらいでしたが、今後は4000語～5000語へと増加します。世界で活躍できるグローバル人材と、そのような人材を育成できる英語教育が社会に求められていると言えます。

2018年度のデータによると、日本人の英語力は世界88カ国中49位でした。中国には抜かれました。韓国は31位です。韓国は国をあげて英語教育に取り組んでいます。日本の英語教育はまさにこれからが正念場です。

日本人が英語を不得意とする理由は様々でしょう。ヨーロッパの方と話す時「日本は島国だからね」「国境という概念がないからね」とよく言われます。本学には短期語学留学のプログラムがあり、向こうで学生が自己紹介で住んでいる場所を言えば必ず聞かれる言葉は「君の町にはどのぐらいの人が住んでいるの?」。欧米の方、特にヨー

ロッパの方は都市の規模や国境、その向こうに別の文化圏があることを日頃から意識していますが、日本は島国であるため、人口や国境を意識する機会がありません。

更には「恥」の文化。ドイツの方に聞くとドイツには日本語の「恥」にあたる言葉がないそうです。命にかかわること、人として良くない行為をした時に感じる「恥ずかしい」という意味の単語はあるが、日本人の「恥」という感覚は理解できない、自分たちは何でも意思を伝えるのだから、と言っていたことを覚えております。

それから外と内です。内輪、などという言葉もあります。そして何よりも文法学習の成果を重視してきた大学入試。日本人が英語を不得意なのは、この文法重視の英語教育が根幹にあったのではないかと思います。

畿央生に聞きました! 「あなたは英語が得意?」

教育学部の1回生・2回生の学生約200名に聞きました。「あなたは英語が得意ですか? 苦手ですか? またその理由は?」。「苦手」と答えた学生がなんと72%です。「苦手」の理由は、「日本語と構造が違うから」「中・高でいい思い出がない」「受験勉強で嫌いになった」「受験が終わってから勉強をしていない」「長文を読んでいると眠くなる」などです。一番多かったのが「伝えたい言葉を英語で上手く伝える事ができない」でした。

こんなデータがあります。イギリスにコーパスと呼ばれる1億語にも及びイギリス英語の書き言葉や話し言葉のデータベースがあります。これに基づく調査によると、イギリス人が日常の会話で使っている語彙の80%以上は500語程度だそうです。日本の中学校で習うhave、take、getのような単語です。私たちも専門的な話をする時以外は簡単な語彙で会話をしています。

つまり、この500語を使えるようになっていれば充分会話の80%以上はカバーできるのです。日本の中学校で学ぶ語彙や表現を使えるようになれば、充分に英語のコミュニケーションが可能だということです。私は日本人の英語力が低いとは言い難いのでは、と考えています。

日本語と英語の コミュニケーション改善策

短期語学留学の引率時に学生を見てみると、緊張してもう何も言えないのです。笑顔を絶やさず聞いているだけです。現地の学校には様々な海外からの学生がいて話しかけてきます。「今日ご飯いっしょにどう?」「今日みんなで映画でも観に行こうよ!」。本学の学生は「Yes」、「No」をはっきり言わないのですね。「maybe」「～かもしれない」ばかりです。返答が曖昧なのです。次の一言が言えない。「How are you?」と聞かれたら「I'm fine!」と大きな声で元気に言うのですが、それから何も言わないのです。なかなか自分のことが言えない。最終的には笑って頷くだけです。長年学生を見てきて、私は日本語コミュニケーションそのものにも少し課題があるのではないかと思います。今日は、日本語のコミュニケーションに少し工夫を加えると英語のコミュニケーションも変わる、3つの改善策をご提案したいと思います。

「聞こう」、「伝えよう」、「考えよう」、で3つ。是非これはお家へ帰られてから学生の皆さんと共有して頂ければ有り難いです。

まず「聞こう」です。欧米の方のコミュニケーションはよく「ボールゲーム」だと言われます。ポンと打ったらポンと返して会話が続く。日本人はどちらかというところとじっと相手のいう事を聞き、割って入るのは失礼だと考えます。向こうの方とコミュニケーションしているボールのやり取りの中では頻りに急にポンと入られます。相槌です。この相槌だけでもたくさんの種類があります。実は欧米の方は非常に聞き上手です。コミュニケーションでは「話す」ことよりも「聞く」ことの方が大事だと言われています。阿川佐和子さんの『聞く力 心をひらく35のヒント』という本の中に、



こんなことが書いてありました。イチロー選手にインタビューする場で、「どうしてそんなにヒットが打てるのですか」「練習をしているからです」「あ、そうですか」。ここでインタビューは終わってしまう。でも阿川さんは、そんな時は答をよく聞きその人の気持ちを想像してみると何かしら疑問が湧き、更に聞くべき事が出てくる、と書いています。では、その「聞く力」をどうやって身に付けるのか。よく“5W1H”といいますが、私はもう一つ“I”を加えます。“5W1H” + “I”。“I”は“I”の“I”です。「もし～なら」を聞くとより想像が深まったり、ふくよかな聞き方になったりします。それから、「はひふへほ」で相槌を打ってみること。「ふうん」「へー！」「ほー！」という風に上手く相槌を打つだけでも、「聞いてくれているのだな」「分かってくれているな」と伝わります。相槌ってすごく大事なのですね。

2つ目は「伝えよう」。日本語は言語学的に高文脈文化、また英語は低文脈文化と言われています。日本語は状況や言葉以外のものが意味を伝達する事を前提としています。「言わなくても分かるよね」「分かるでしょ雰囲気です」「表情で分かるよね」。そんな文化のことです。アラブ人やギリシア人もこの高文脈文化に近いそうです。一方で低文脈文化は、「言わなきゃ分からないでしょ」の文化です。ドイツがこの文化です。例をあげましょう。ドイツでタクシーを呼びホテルの前で待っていた、とします。自分が呼んだタクシーだ、とアピールしていない限り、ドイツ人はあなたの呼んだタクシーに乗ってしまう。英語も低文脈文化ですのでしっかり伝える必要があります。日本語では「買い物行く？」で済みますが、英語では“Do you want to go shopping with me right now?”ここまで言わなければなりません。伝える時は、誰が、何を、どうするか、を具体的に言う必要があります。萩本欽一さん、欽ちゃんのエピソードですが、昔「欽どこ」という番組で沢山の子どもをオーディションする際、「好きな食べ物は何ですか」と必ず聞いていたそうです。大半の子どもは、「ハンバーグ」「オムレツ」などと答えるのですが、たった一人「お母さんの作ったお稲荷さん」と

答えた子どもがいたそうです。とても具体的ですね。欽ちゃんは「君こそスーパースター」と言ったそうです。実はこの人、本当にスーパースターになりました。木村拓哉さんです。私からのご提案は、「伝えるためには具体的に伝える」ことです。極力省略せず正確な日本語を使うようにする。そしてより具体的に伝える。

日本語のコミュニケーションを磨く事にも繋がりますし、ゆくゆくは英語のコミュニケーションを磨く事にも繋がると思います。

3つ目は「考えよう」。日本語の特徴は、曖昧な表現が多いことです。「ちょっと待ってください」「ちょっとそこまで行こう」の「ちょっと」。海外の方に聞くとこの「ちょっと」がどのくらいなのか分からない。またある調査研究によると、「日本人は自分の考えをはっきり言わない」と思っている留学生が72%もいたそうです。本質が分からないというのは日本語や日本のコミュニケーションの特徴ではないかと思っています。確かに意味がありそうでよく聞くと意味のない言葉が多いです。「みんなそう言っているよ」の「みんな」って誰でしょう。「常識で考えたら分かるやろ」の「常識」ってなんでしょうか。「先生、教師になるにはコミュニケーション能力が大切ですね」と学生がよく言いますが、「コミュニケーション能力」って分かったようで実はどのような能力が分からないですね。ですので、物事の本質を考え、それを伝えないとコミュニケーションは円滑に進まないと私は考えています。教員志望の200名の学生に「当たって砕けろ！」を英訳する課題を出してみました。“Let's just do it!”などが正解ですが、学生の答をみて落胆しました。“Hit and break”、“Go break” ぶつかったら怪我しますよね。あと、“Attack and break you”、“Go straight”など。正解を書けた学生は200名のうち10名です。英語力が低いのではなく、伝えるべき本質が何かを考えていないのです。ではどうすればよいか。会話の中で「つまり」「要するに」を使う事で、伝えたい本質をより明らかに出来ます。「つまり」「要するに」が示す本質を伝えることでコミュニケーションスタイルに変化が出てくるのでは、と思います。

畿央大学の英語教育

最後に畿央大学の英語教育を簡単にご紹介したいと思います。まず入学直前の3月末にTOEIC



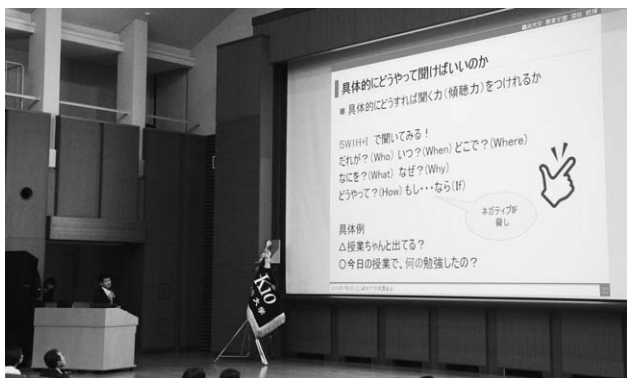
Bridgeという試験をプレイスメントテストとして導入しております。英語力を測る世界共通のテストであるTOEICへの橋渡しのテストです。1回生の全平均点が180点満点で128点でした。おおよそ全国平均と同じです。1回生の必修科目に「英語コミュニケーション」があり、Web上の学習支援システムに毎日の学習記録を残させています。また、授業外学習としてeラーニング教材を活用しております。これは将来的に受けるTOEICと連動したものです。TOEICは学内受験を実施、受験料の一部を免除し半額以下での受験が可能です。夏期・春期には短期語学留学のプログラムがあり、奨学金や報奨金制度を設けております。また、理学療法学科、看護医療学科ではそれぞれの学科での学びに応じた海外インターンシップを実施しております。教育学部では中・高の英語の免許また小学校英語関連の授業を開講しております。来年度からは教育学部に英語教育コースを開設します。

私はいつも「英語（EIGO）教育は愛（I）がないとエゴ（EGO）の教育になりますよ」と学生に言って笑われるのですが、我々英語担当教員並びにスタッフ全員、学生が伸びるような支援をしていこうという気持ちで取り組んでいます。勿論、畿央はKIOですから、大学全体で愛（I）を中心に据えた教育を実施しております。引き続きのご支援をお願い致します。有難うございました。

深田 将揮

畿央大学教育学部現代教育学科 准教授

専門は、英語教育学、TESOL。大学卒業後、単身渡米。米国では、英語を母語としない人のための英語教育（Teaching English to Speakers of Other Languages：TESOL）について学ぶ。帰国後、学んだことを発展させるため大学院生として研究を続けながら、児童英語教師として子どもたちと英語活動をする。その後高等学校の英語教員として教壇に立つ。モットーは、「英語学習。」現在、中学校・高等学校の英語教員養成課程及び小学校英語関連科目を担当。



メッセージ

健康科学部
理学療法学科
学科長

庄本 康治

保護者の皆さま
には日頃より理学
療法学科の運営・
教育にご理解とご
協力を賜り、感謝
申し上げます。

前期開講前の4月4日(木)、5日(金)
に、新入生宿泊研修を新大阪のホテル大阪
ガーデンパレスで今年度も開催しました。



この宿泊研修の目的は、新入生同士で親しくなってもらふことと、建学の精神と理学療法士について考察することにあります。

初日は同じ部屋に新入生全員が集合し、張り詰めた空気が漂った中での昼食会から開始しました。しかし、引き続いてのクラス会では徐々に笑顔が見られ、少しずつ良い雰囲気になっていきました。初日は4回生5名に、学生生活全般、勉強、課外活動、学外実習などに関するプレゼンテーションをしてもらいましたが、新入生はとても熱心に傾聴していました。その後のグループワークでも、充実した学生生活を過ごすための色々な提案、工夫を協働しながら発表していました。初日の晩ではすっかりと打ち解け、遅くまで色々な話で盛り上がり、2日目はやや寝不足気味での参加

になっていました。

2日目は、卒業生5名に、臨床・研究活動、大学院、理学療法士の仕事などについてプレゼンテーションして頂きました。プレゼンテーション内容には、患者さんのビデオ、写真なども多く含んでいて、理学療法士の仕事の重要性を感じ取り、志も新たに出来たのではないかと思います。新入生は、先輩である卒業生の頑張りを感じて、ある種の不安と希望、羨望が入り交じった気持ちになっていたように私には映りました。理学療法士として徳をのぼす、知をみがく、美をつくる事の意味についても初めて考察してもらいましたが、今後も考え続けていく機会を提供したいと考えています。

元気塾

今年度の元気塾を4月16日から7月12日までの火曜日と金曜日、16時30分から18時30分の時間帯で開催しました。元気塾は、かつてリハビリテーション科の治療を受けていた利用者様7名にご協力、参加頂き、1名の利用者様に3回生が9名前後担当し、個別に色々評価し、どのような運動をすれば良いのか、教員と一緒に計画を立て、実際に運動を実施していく教室です。利用者様の運動参加の判断については、ご協力頂いている西大和リハビリテーション病院の医師による診察を受けてもらい、許可頂いた方のみに参加して頂くことになってい

ます。利用者様の病気の内訳は、脳梗塞、脳出血後、パーキンソン病、脚の骨折手術後など多岐にわたっています。写真の様に利用者様の機能を検査・測定し、運動を指導しますが、その時には高いレベルの言語的コミュニケーションが学生に必要となり、これらが鍛えられます。さらに、視線を合す、うなずく、笑顔で対応する、ジェスチャーといった非言語的コミュニケーション能力も鍛えられます。そして、障害をお持ちの方を更に良くしたいという意欲が学生に発生し、それが勉強の意欲向上に繋がると考えています。また、理学療法士は他職種との協働が要求されますが、頻回なグ



ループワークもこれらの能力向上に役立っていると考えています。3回生は2020年2、3月に評価実習がありますが、その事前的練習としても役立っています。

TASK(健康支援学生チーム)新入生に向けた機器説明&新入生歓迎会!

今回の勉強会ではこれから健康診断などでTASKがよく使用する機器の説明を新入生に向けて行いました! 種類はFRT (Functional Reach Test)、握力計、長座体前屈、垂直飛びの4種類です。1回生にもそれぞれの測定器具を体験してもらいました。2回生も初めての後輩に対して、「先輩

という意識をもって機器の説明をしてくれました。今回の勉強会でTASKにより興味を持ってくれたら嬉しいです。

勉強会の後は畿央カフェテリアをお借りして、新入生歓迎会を行いました! 立食パーティだったので1・2・3回生全員で交流することができて、とても楽しく有意義な時間を過ごせました! ただ人数が多かった分、全員と話ができなかったのが残念でしたが、TASKの活動がすごく楽しみになりました! これからの1回生に期待です。

これから一緒にTASKの活動をフォローしていきましょう!
そして1回生の皆さん、よろしくお願ひします!

(2回生O)



メッセージ

健康科学部
看護医療学科
学科長
河野 由美



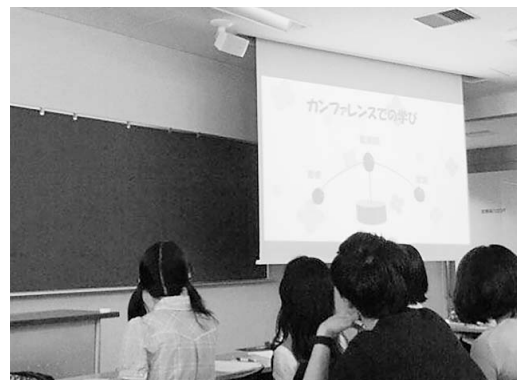
<看護職として活躍できる人材育成①>

後援会の皆様には、本学の教育にご理解と多大なご協力を賜り、心より御礼申し上げます。さて、2019年4月時点で看護系大学校数は277校となり、学校数はわずか20年で3.5倍に増加しております。急速に看護系大学校数が増加したこともあり、近年看護系大学教育の質評価・アウトカム評価に大きな関心が寄せられております。アウトカム評価としては様々なものがございますが、その一つに国家試験合格率があります。今年2月に実施された看護師・保健師・助産師の国家試験合格率ですが、おかげさまで

本校はこの3つの国家試験全てにおいて合格率は100%でした。関西の私立大学において、3つの国家試験全ての合格率が100%であったのは昨年と本年ともに本校を入れて2校のみです。またアウトカム評価として就職も重要になりますが、本学では就職に関してもキャリアセンターと連携して学生の希望が叶うように手厚く支援をしております。全国に86病院しかない高度医療を提供する特定機能病院に卒業生の2割が就職し、特定機能病院以外でも、ほとんどの学生が卒後教育体制の整った希望する病院に就職しております。今後も引き続き、本学では質の高い教育を担保し、本学で学んだ学生が社会に大きく貢献できるよう、建学の精神を礎としながらも、高い専門性と人間性を備えた専門職教育が行えるよう尽力していきたいと存じます。今後とも引き続き、皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

<看護職として活躍できる人材育成②>

以前にもお伝えしたかもしれませんが、日本看護協会の調査によれば入職して1年で退職する新人看護師の割合は全国平均で1割程度とされております。本学では学生の入職時のリアリティショックを少しでも少なくし、看護職として長く働くことができるように、4年生で「病院インターンシップ」を行っております。「病院インターンシップ」では、医療現場でより



実際の看護活動を学べるようにしております。この発表会の様子を学生が大学のブログに掲載していますので、学生のご了承を得て一部を紹介致します。学生の言葉として、「発表したいことが多く、限られた時間の中で、各病院で学んだことをすべて伝えることは難しいと思うほど、多くのことを学ぶことができた実習でした。」「今までの実習では考える機会の少なかった“複数の患者さんを受け持った際の看護師がどのように優先順位を立て、時間管理をおこなっているのか”について、実際のメンバー看護師のシャドーイングや実際に2人や3人の患者を受け持たせていただくことで、考え学ぶことができました。」「また、チームで働く看護師のシャドーイングを通して、チームにおける看護師の立場や役割について学ぶことができたと思います。」との記載がありました。学生は期待以上に多くの貴重な学びを得ていると思います。学生が4年間で確実に成長していることを強く実感でき、学生のことを大変誇らしく感じられる実習となっています。



海外インターンシップinオーストラリア 事前校内プログラムレポート

看護医療学科「海外インターンシップ」が、2019年8月24日(土)から8月31日(土)、オーストラリアで行われました。海外インターンシップの目的はオーストラリアの文化・風習に触れ、その中で築かれた保健・医療・福祉制度に関する事情や課題を知ることによって日本の制度や保障との比較をすることです。また、グローバル化に対応できる看護職者として、世界共通語である英語力の向上やコミュニケーションスキルを身に付けることも目的の一つです。研修訪問先は、オーストラリア ヴィクトリア州 メルボルンで、今年は2年生8名がこの研修に参加しました。



事前校内プログラムとして、参加する学生が研修先の「歴史や文化・風習」・



「保健・医療福祉制度」・「高齢者や家族支援」・「幼少期からの世代間交流」「日本の医療制度・保障の比較」についてそれぞれ調べ、語学力UPの為、英語でプレゼンに挑戦しました。たくさんの質問が出たので、次回の事前プログラムまでにはブラッシュアップし、再度プレゼンテーションを行いました。

(2年生N・M)

メッセージ

健康科学部
健康栄養学科
学科長

栢野 新市

本年度より健康栄養学科長に就任しました栢野です。保護者の皆様には日頃より本学および健康栄養学科へのご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。



早速ですが、本年3月に管理栄養士国家試験が実施され、本学からは85名が受験し全員が合格しました。4年ぶりに合格率100%を達成できたのですが、これはひとえに学生達が日々努力を積み重ねた結果であり、国家試験当日まで指導を続けた学科の教員全員にとっても大きな喜びとなりました。一方、数名の学生が国家試験を受験することなく卒業するという事実も残りました。卒業生全員が管理栄養士国家試験にチャレンジし、全員が合格を果せることを目標に指導していきます。

管理栄養士は食と栄養にかかわる唯一の国家資格です。この資格を取得するためには、広範な分野の科目の単位をすべて修得

し、さらに3月に実施される国家試験に合格する必要があります。したがって管理栄養士の免許証を取得すれば、それは食と栄養に関する幅広い専門知識を身に付けている専門家であるという証となります。健康栄養学科の卒業生は、病院、福祉施設、栄養教諭、食品製造、商社、小売りなど多彩な業種に就職しますが、いずれの分野においても管理栄養士の資格を取得する際に身に付けた幅広い専門知識を生かして活躍しています。そういった点からも、卒業生全員が国家試験に合格し資格を持って社会に出て欲しい、それができた時が本当の100%だと思っています。

授業レポート ～スポーツ栄養コース推奨科目～「スポーツ栄養指導実習」

スポーツ栄養コースでは、スポーツ実践者に対する栄養指導と栄養教育の方法を実践的に学ぶ実習を4年生対象に開講しています。受講生は3年生までに座学と実験で学んだスポーツ栄養学の理論を基に、実際にスポーツ栄養の実務に携わっている管理



栄養士から指導を受け、スポーツ現場に必要な栄養サポートの方法と食事指導のノウハウを

身につけます。

本年度は、大学近隣の高校生アスリートを対象に食事と栄養指導を、公認スポーツ栄養士の指導の元に行いました。受講生は選手達を前にして最初は緊張していたようですが、選手の体脂肪の測定や食事内容の調査を行い、選手個人に応じた栄養指導を経験しました。最近はスポーツ栄養学の進歩によって高校生アスリートの体格が徐々にプロ選手に近づいています。選手達には、筋肉をつけて体格をよくするためには、何をどれだけ食べたらよいのかをわかりやすく説明しました。また、社会人の講師の先生をお招きして、大学のスポーツ寮におけ

るアスリートの献立作成と調理の経験をお話ししていただき、スポーツ選手の献立作成の実習も行いました。

この実習を通して、どのような管理栄養士がスポーツ現場で求められているのかを受講生は学ぶことができたと思います。運動と栄養の両面から健康をサポートする管理栄養士を目指す上で、貴重な経験を積むことができたと感じています。



大和丸なすピザが競演! 4大学対抗「P-1 グランプリ」参加レポート

令和元年6月8日(土)・9日(日)にイオンモール大和郡山で行われた「P-1 グランプリ」に本学のヘルスチーム菜良*が出場しました。

大和郡山市、石釜ピッツェリア&BARサンブーペーとヘルスチーム菜良は、大和の伝統野菜「大和丸なす」をはじめとした大和郡山産野菜を使用した各大学1種類合計4種類のピザを共同開発。4大学対抗のピザバトルを「P-1 グランプリ」と銘打ち、奈良女子大学からは「レモン薫る初夏のビタミンカラーピザ」、帝塚山大学からは「和風とカレーのコラボ! パリッとモチモチピザ」、近畿大学からは「大和野菜をはさんだ2種のソースピザ」、そして畿央大学からは「初夏を

感じる大和野菜たっぷりモチモチリーザ」がそれぞれ出品されました。今回、販売においてピザの試食会も行われ、四大学のピザを食べようとたくさんの人が集まりました。試食のピ

ザを用意するのが大変でしたが、無事にすべてのピザを提供することができました。「おいしい!」という声が多く聞こえ、ピザのこだわりの点などを伝えることができ、たくさんのピザが購入されたのでとてもうれしかったです。

畿央大学は惜しくも優勝を逃しましたが、大和郡山産野菜を4種入れたことやお餅を入れたこと、紫陽花に見立てた盛り付けなどを高く評価されました。P-1 グランプリ、試食会ともに大盛況のまま終わることができて、四大学合同の活動で他大学の方々と交流することもできたので、とてもいい体験をすることができました。

(3年生T)

※ヘルスチーム菜良…管理栄養士養成課程を持つ奈良県内4年制大学(畿央大学、近畿大学、帝塚山大学、奈良女子大学)で構成されており、食育啓蒙活動に取り組んでいます。



メッセージ

健康科学部
人間環境デザイン学科
学科長

三井田 康記

平素より、本学の教育にご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。



また、先日の保護者懇談会には多数ご参加いただき、ありがとうございました。ゆっくりお話を伺えればよかったのですが、瞬

く間に時間が過ぎてしまいました。ご都合がつくときには、いつでも大学へお越しください。

前期試験も終わり、授業がなくなると、大学は夏休みに入り、急に静かになります。

夏休みは、旅行やインターンシップ、ゼミなど、日ごろはできない体験を積むことができる、学生時代の貴重な期間です。この夏は台湾の国立高雄大学の先生や学生を招聘し、明日香村で、本学の学生と一緒にサマーセミナーを開催します。明日香村がかかえる課題を調べ、それぞれの立場から話し合い、解決策を探そうとする、課題解決型のワークショップです。参加する学生諸君にはかけがえのない体験になるでしょう。

2回生は7月の後半にプロジェクトゼミ

の配属が決まりました。夏休み中に専門的なゼミ活動が始まります。

一方、4回生も大学4年間の集大成としての卒業研究に本格的に取り組む時期に来ました。今年度は締め切りを1月10日(金)としているため、特に、夏休みの過ごし方が卒業研究や卒業制作のできればえを左右します。

今年度も卒業作品展を、大和高田市さざんかホールでの展示室で、来年2月29日(土)、3月1日(日)に開催します。

御期待ください。必ずや、4回生は充実した成果をお見せできるでしょう。

われわれ教員、全力で教育にあたる覚悟でいます。今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

海外インターンシップ —明日香村 サマーワークショップ—

人間環境デザイン学科では、この夏、台湾の高雄大学の教員と学生を招き、明日香村にてワークショップを開催します。海外インターンシップの一環として、本学科の2回生、3回生22名が参加し、明日香村の地域活性化に向けて、旧集落における地域課題の発見と解決方法の提案について、国際交流活動を通じて実践的に学ぶことを目的としています。



ワークショップの課題は、明日香村の町並み再生計画と空き家の活用です。そのため、現地

調査により旧集落の地域課題を分析し、空き家の実測調査や図面作成を行いました。この情報は既に台湾の学生とも共有しており、8月25日から9月1日という短い日程のなかで成果が出せるよう、事前準備のための作業を学生たちが分担しています。

また、台湾の学生とともに議論して提案を行いますので、円滑に作業を進めるためのツールとして、顔写真入りの英語と日本語の自己紹介カードを作成しました。

これらチームによる作業の他、台湾と日本の大学生生活の様子と設計演習に関する情報交換、木造建築の見学会等のプログラムも企画しています。大変暑い時期ですので、体調管理には十分注意して実施したいと思

います。

さらに、明日香村商工会や大和飛鳥ツーリズムのご協力のもと、



民家の宿泊体験もあり、台湾と日本の学生たちにとって有意義な学びの機会となることを期待しています。

最終の成果発表会で、国際交流を通して学生たちがどのような提案をしてくれるのか、それらを明日香村の方々はどう評価して頂けるのか、とても楽しみです。

『絵本のひろば』

近隣地域の課題解決に2・3回生合同で取り組む「プロジェクトゼミ」。

今回は、大和高田市にある「さざんかホール」内の空き店舗を利用して『絵本のひろば』を設置しようと現在奮闘中の活動をご紹介します。

この活動の目的は、ただ絵本を読める場所を創るのではなく、絵本を核とした人々のつながりを生み出すことです。自宅で不要になった絵本の寄付を募り、そこには、絵本を読みたい子供や親が集まります。子育て世代だけではなく、シニア世代にとっても、彼らを見守ることで元気をもらい、時に子育ての相談にのるなどの交流がうまれることを期待しています。

『絵本のひろば』に設置する本棚にもこだわっています。奈良県産の桧集成材でつくる汽車型の本棚です。この本棚を組み立てるためのパーツは、桜井市にある(有)前田木材工業に依頼し、最新技術のレーザーカッターで加工していただきます。また、本を収納するだけではなく、ここへ集まる子供た

ちが楽しく遊べるように、汽車には運転席を設け、タイヤがくるくると回転するなど、たくさんのアイデアが詰め込まれています。

8月中には1台目の汽車型本棚が完成する予定ですが、実際につくりだすまでに、何台もミニチュア模型を制作し(写真参照)、間違いが判明しては図面を修正し、作り直しました。この作業を何度も繰り返し、やっと1台目の最終図面が先日完成いたしました。

ものづくりには、下準備がとても大切です。頭の中の理想で膨れ上がっているものが、図面を書き、模型を作ることで整理をし、細かな事にも気が付けます。どこがどう重なるのか?強度は問題ないか?といったような角度で意識する事で理解力も高まります。

図面を描いても失敗はありますが、次に活かせるスキルもしっかり身に付きます。今回の活動では、ものづくりの楽しさだけではなく、楽しむための努力や苦悩についても、学生たちに考えてほしいと思います。



メッセージ

教育学部
現代教育学科
学科長
島 恒生

後援会の皆様には、いつもご支援・ご理解を賜り、感謝申し上げます。本年度より、学科長をしています島です。宜しくお願いします。7月初めに、保護者懇談会を行いました。



昨年度は台風の影響で中止となったため、2年ぶりの開催でした。教育学部は学科説明会に156名、あとの懇親会に114名と、これまでで一番多くの参加者となりました。ありがとうございました。

毎回、保護者の皆さんとお会いすると、雰囲気や仕草までが学生ととても似ていて、名札のお名前を拝見するのがいつも楽しみです。保護者の皆さん同士も同様で、子どもさんを通じて聞いている友達とその保護者の名札の名前が一致すると、「ああ、〇〇さん!」「いつも子どもから聞いています!」と感嘆の声があちこちであがります。畿央大学ならではの光景で、心が温くなる瞬間です。

4回生のテーブルは、保護者の皆さん同士が例年以上に顔見知りで、「是非、来年は卒業生保護者として参加したい!」という声を何人もの方からいただき、嬉しい限りでした。

一人一人の学生が人生を豊かに築いていけるよう、保護者の皆さんと私たち教職員がさらに応援団となれたらと思います。

来年の保護者懇談会に、卒業生の保護者の方をお招きするのは難しいですが、在学生の保護者の皆さんには引き続き、より多くのご参加をいただき、たくさん歓談させていただきますのを楽しみにしています。

今後とも、より一層のご支援・ご理解をお願い申し上げます。

10期生が巣立っていきました!!

この春、10期生が大学を巣立っていきました。10期生という大きな節目でしたが、採用試験でも奮闘を見せてくれました。

49名が小学校教諭（奈良県17名、大阪府14名、大阪市6名など）、2名が養護教諭（兵庫県、滋賀県、三重県に各1名。うち複数合格あり）、5名が特別支援学校教諭（奈良県5名、静岡県1名。うち複数合格あり）の採用試験に現役合格しました。合格率は、小学校64.5%（昨年度62.0%）、養護教諭12.5%（23.8%）、特別支援学校教諭83.3%（50.0%）でした。

また、公立幼稚園・保育園は、32名中31名が現役合格し、合格率は何と96.9%（昨年度87.2%）となるなど、大いに奮闘して

くれました。

これらの成果は、学生の努力の賜物ですが、学生と保護者の皆さん、そして私たち教職員が一丸となって得られたものでもあると思います。

写真は、教採対策講座の一つである「グループワーク」試験の対策の様子です。教採は、色んな試験が課されます。筆記や実技、個人面接だけでなく、「集団討論」や「グループワーク」など、集団活動を通じた試験が増えてきています。この背景には、学級集団など子ども集団を指導する力が求められているとともに、今、学校現場で注目されている「チーム学校」として課題解決に当たっていく体制づくりなども関連し



ているものと思われます。

みんなで力を合わせ、みんなで支え合い、頑張りましょう!!

新入生宿泊研修・大阪教育大学附属池田小学校訪問

現代教育学科では、新入生宿泊研修として、4月4日～5日まで白浜に出かけました。初日は三段壁や千畳敷を見学し、ホテルに到着後、入学の決意を文章に書き、チームビルディングのためにグループワークを行いました。2日目は、晴天の下、白良浜の砂で造形活動を行いました。大学を出発するときには不安そうな顔でしたが、帰る頃には友達もたくさんできたようで、これからの大学生生活を楽しみにしている様子がうかがえました。

前期授業が始まり、木曜日の1、2限目は、初年次教育の一環で、大学の環境に慣れ、グループワークを行いつつ、各自のスキルを高める時間です。その中でも5月30日は、大阪教育大学附属池田小学校の授業を見学し、子どもたちが安心して学ぶことのできる学習



環境について学びました。先生の発問や板書の様子、子どもとのやり取りや昼食タイムを通して、「先生」になることの心構えも強く持つことができました。

前期最後の8月1日には、欠席者を除く全員が、スライド資料を提示しながら、マイクを使わず、自分自身の声で、調べたことを自分の言葉で発表する姿を見ることができました。先生の卵として、まずは第一歩を踏み出したようです。

後期の活躍も期待しています。

担任からのメッセージ

畿央大学の担任制度は、教員が担任として学生との人格的な接触をはかり、学生生活全般の指導を行うことによって、建学の精神を身につけた有為な人材を養成することを目的としています。

健康科学部は学科ごとに2～4クラスを編成し各クラスに1名、教育学部はコースごとに2～6名のクラス担任を置いています。健康科学部4年生（人間環境デザイン学科は3年生より）、教育

学部3・4年生は卒業研究の指導教員がゼミ担任となります。

担任の役割は、「学習指導」「生活指導」「進路・就職指導」「学生の危機管理」が主なものですが、学生一人ひとりの状況を系統的に把握していくために全学年において年2回の全員面談を実施しています。また、学生の求めや必要性が生じた時には随時に面談を行うこととしています。

各学科のクラス担任（ゼミ担任を除く）から、担当されている学生の様子などについて保護者の方へのメッセージを寄せていただきました。



理学療法学科1年生担任

瓜谷 大輔

入学後初めての面談では、大学での学び方、学習内容のレベルやその量、長い通学時間など、個人個人でその内容や程度に違いこそあれ、ほとんどの学生が高校時代との違いに戸惑いながら四苦八苦しながらも大学生活が少しでも早く軌道に乗るように努力している様子がうかがえました。勉強を最優先に取り組んでもらいつつも、今だからこそできるチャレンジもどんどんしていただきたいと思います。ご家庭でも折に触れてお子様方の様子に少し気を配っていただき、卒業まで見守っていただきたいと思います。



理学療法学科1年生担任

福森 貢

5月の面談では皆さんから、まだ学生生活には慣れていないが毎日楽しく過ごしているという感想をいただきました。また、それぞれが思い描いているPTに向かって頑張りたいという意欲も感じられました。前期試験を経て、9月には成績が通知（送付）されることになります。この結果を冷静に分析して、さらに専門性のレベルがアップする後期の授業に向けて、生活リズムを調整していただきたいと思います。大学は自らやればやるだけ素晴らしい「チカラ」がつく場所です。どうぞ保護者の皆様にもさらなるご支援をお願い申し上げます。



理学療法学科2年生担任

峯松 亮

2年生となりましたが、面談の際にはほとんどの学生が大学は楽しいとこたえており、とてもうれしく思っております。学習面では、多くの学生が後期必修単位を取得しただけでなく、成績の向上がみられました。また、前期の学習目標でも単位を取得することはもちろん、成績の向上を目標に挙げています。実際、2回生前期からは実技試験も経験することになり、皆が協力し合って勉強、練習をしている光景をよく見かけるようになりました。大学の勉強だけではなく、課外活動やバイト、遊びなど、誰かと一緒に行った経験や体験は彼らにとって良い思い出として残るのではないのでしょうか。

これからも彼らが有意義な学生生活を過ごせるようサポートしていきますので、引き続き保護者の皆様にもご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。



理学療法学科2年生担任

高取 克彦

本当に「仲良く、にぎやか」が特徴的な学年だと思います。前期は空きコマが多い時間制でしたが、皆さん積極的に実技練習、中間テスト対策など頑張っていました。何かと中だるみしやすい学年でもあります。将来出会う患者さんに質の高い理学療法を提供できるように、全力で支援していきたいと思います。「理学療法士になる！」という明確な目標に学生達がブレる事なく進んで行ける様、保護者の皆様におかれましてはご支援をお願いできればと思います。



理学療法学科3年生担任

冷水 誠

あっという間に3年生となり、講義は専門科目のみとなりました。学生は昨年度末の学外実習を経験し、理学療法（土）のイメージが明確となった様子で、前向きに講義・実技に取り組んでくれています。また、多くの学生が「元氣塾」に参加し、これまでの「覚える」勉強から「理解し、考えて、答えを導き出す」という学習に進んでいるように感じます。その分、時間と労力が大変そうですが、このまま後期そして長期実習へと突っ走れるように、学生それぞれの背中を保護者の皆様の力をお借りしながら精一杯押していこうと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



理学療法学科3年生担任

松本 大輔

2年次の検査・測定実習では、初めて、実際に患者さんに触れ、自分自身の課題や患者さんに関わることの不安・怖さや指導者への憧れ等、さまざまな気づきがあったようです。3年生になり、多くの学生が自主的に元氣塾へ参加しています。利用者さんにとって何が大切なのか、自分たちに何ができるのかについて、夜遅くまで必死に考えている姿を見ます。少しずつ専門職になる自覚ができています。その一方で、3、4年次の臨床実習への不安や焦りから、頑張りすぎてしまう学生も少なくありません。保護者の方には生活面のサポートや学生の気持ちを聴く機会を作っていただければと思います。また、不明な点がありましたら、気軽にお声かけくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



看護医療学科1年生担任

廣金 和枝

4月の宿泊研修、大学での講義や演習、実技試験、8月の初めての病院実習、どれも大きな刺激となった前期であったと思います。6月の面談では、新しい環境に戸惑いながらも、サークル

活動などを通じて先輩や友人とつながり、大学生活の基盤をそれぞれが作りつつあると感じました。4年後に立派な社会人・専門職として成長してもらうためには、今から学生生活にも学修にも自律性が必要です。担任としてサポートしていきたいと思いますので、ご協力賜りますようお願い致します。



看護医療学科1年生担任

小林 智子

全体的に明るく元気で、学生生活を心から楽しんでいる様子です。大学の学修にもずい分慣れてきたようですが、看護技術の修得も含め、真面目に、かつ一生懸命に取り組む姿勢は今後も変わらず継続してほしいと願っています。後期も授業で関わりますが、担任としては全体に目を配りながら、大学生として、また看護を学ぶ者としての自覚を促しつつ、サポートできる態勢も整えておきたいと思います。今後ともよろしく願い致します。



看護医療学科1年生担任

鷲尾 弘枝

本学に入学してから早いものでもう半年になろうとしています。全体的な印象としては、真面目で、クラス関係なく、全体的に仲良くやっているようです。サークルやアルバイトと学業の両立、学校への通学等にもやっと慣れてきた頃かと思いますが、疲れが出やすくなっているとも思いますので、しっかりと眠れているか、食べているか、ご家庭においても気にかけていただければと思います。今後、保護者の方々も1学年担任みんなで力を合わせて精一杯学生さんを支えていきたいとおります。



看護医療学科1年生担任

中西 恵理

入学当初は、生活パターンの変化や初めて学ぶ専門科目に戸惑う様子も見られましたが、徐々に自分のペースをつかみつつあるのではないかと思います。放課後や授業の空き時間を利用して、課題や技術練習に積極的に取り組んでいる姿が、とても頼もしく感じられます。

後期からも、より主体的に学修に取り組むことができるよう、学生一人ひとりの様子を見守り、サポートしていきたいです。ご家庭でのご支援をよろしくお願いいたします。



看護医療学科2年生担任

松本 泉美

1年次後期の基礎実習で初めて患者様を受け持った経験から、看護者として学ぶことの意味を自覚できたようで、担任として成長を感じていま

す。2年生となり、科目毎の学習がより実践的になり課題の多さに苦労しているようですが、3年次の実習に向けて必要な学習ですので、アルバイトの時間を上手に調整してほしいと思います。2年次の夏季休暇では普段できない事にもチャレンジして、後期を迎えてほしいと思います。



看護医療学科2回生担任

乾 富士男

時間割が過密なことに加え、レポート、課題、小テストなどが多く、与えられる学習だけで手いっぱいだと声がよく聞かれました。一見、しっかりと勉強しているようでいように聞こえます。しかし、与えられなければ勉強ができないということにならないように注意が必要です。優秀な学生さんからは、課題が多すぎて、自分の勉強をする時間が持てないことが苦痛であるとの訴えがありました。時間をうまく使って、有意義な学生生活となることを願っています。



看護医療学科2回生担任

弓場 紀子

クラス全員それぞれ自己を内省し、それぞれの表情をしていたのが印象に残っています。昨年は、健康状態が不安定だった学生や遠距離から通学する学生が一日も早く大学生活に適應してくれることを願っていました。今年は、通学や大学生活に慣れたこともあり、健康状態が少し安定し、自分なりのペースで多忙な中でも充実した日々を送れるようになりました。ただ、アルバイトを週2～3日している学生が多くいる現状から、専門科目が開始となり、毎日の予習・復習が求められる中、どうしても睡眠時間を削る形となり体調を崩す学生がいるのが気になっています。学生が、いつもで気軽に学習や生活上の悩みなどを相談できる関係でいたいと思っています。来年度の臨地実習にむけて、体調管理及び単位の取りこぼしをしないように叱咤激励をお願い致します。



看護医療学科2回生担任

堀江 尚子

大学生活にもすっかり馴染み、自分なりの生活ペースを確立している様子が、前期面談で伺えました。たくさん課題の学習時間を確保したうえで、所属のサークルやアルバイトの仲間と交友を深めているようです。友人との交流は人生において貴重な財産です。一方で、ひとりですっきり考える時間も重要です。折に触れ、学生の皆さんには伝えるようにしています。長期休暇のひと時でも、そのように過ごされることを期待しています。



看護医療学科3回生担任

林 有学

3回生の前期は、後期から始まる実習を控え、それぞれの課題に真剣に取り組んでいます。実習に対する不安はあるようですが、「頑張りたい」と前向きな様子もみられ、成長が楽しみだと感じました。実習では、悩んだり落ち込んだりすることもあると思いますが、今までの学修が必ず活かされます。担任として個々の学生に寄り添いながらサポートしたいと思います。実習では特に健康管理が重要となりますので、ご家庭でもご支援のほど、よろしくをお願いいたします。



看護医療学科3回生担任

林田 麗

学生は前期に専門科目についてより深く理解することを求められ、これまでの学生生活の中で最も勉学に励んでいたと思います。それは、後期からの実習に臨むためでもあります。不安を抱えていると思いますが、これまでの学修を活かし、目の前の患者を看護できるよう私も担任として力になりたいと思っています。ご家庭でもより一層のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



看護医療学科3回生担任

對中 百合

3年生になり今まで積み重ねてきた知識を実践につなげることができるように、より専門的な学修へと移行しています。そのため課題をもとに、自らが考え、実践するためにはどうすべきかを考えながら取り組んでいます。多くの課題を前に、自分の時間をどう使っていくのか、戸惑いながらも日々頑張っています。さらに後期からは臨地実習が始まります。慣れない環境での実習では、大きな不安やストレスが生じますが、指導者や患者様との出会いは大きな成長につながります。今後引き続き学生のサポートを続けて参りますが、ご家庭でも支援の程よろしくお願いいたします。



看護医療学科3回生担任

祐實 泰子

大学生活も3年目となり、後期からの臨地実習に向けて様々な面で努力を積み重ねてきた半年だったと思います。面談の際には、現状がどれほどたいへんかを主張しながらも前に向かって進もうとする決意が伺え、入学したころの幼さはほとんど感じられないようになってきています。将来の目標も明確になってきており、看護師、保健師、助産師、そして養護教諭と、各々が希望通りの進路に進めるよう頑張っております。どうぞご家庭におきましてもご支援賜りますようよろしくお願いいたします。



健康栄養学科1回生担任

岩田 恵美子

5月の面談では、授業内容の難しさやスピードが速いことなど、高校での授業との違いに戸惑いや不安の声が多かったのですが、授業にも慣れ、単位取得に向けて各自頑張っているようです。学習面以外では、オープンキャンパスや地域連携の活動にも積極的な学生が多く、非常に頼もしく感じています。この先、専門科目も増えて授業内容もさらに難しくなりますが、学祭などの楽しい行事もありますので、さらに充実した大学生活をおくれるようサポートをしてみたいです。これからもご支援の程よろしくお願いいたします。



健康栄養学科1回生担任

玉井 典子

前期の面談で大学生活はどうですか？と問いかけると「楽しいです！」と笑顔で答える学生が多く初めての担任としてはホッとしております。「将来は？」「スポーツ栄養を」「栄養教諭に」「食品開発で」とそれぞれに答えてくれました。今の気持ちを大切に、積極的に学び夢をかなえてほしいと思います。一方、長時間の通学やアルバイトで、睡眠不足や疲れを感じている学生もおります。意欲的に学ぶには心身の健康が重要です。ご家庭

でのサポートをお願いいたします。



健康栄養学科1回生担任

野原 潤子

はじめての大学生活でサークルや勉強、アルバイトなど新しい経験を意欲的にしてくれている学生が多かったように思います。

ただ、時間の使い方が上手いかず、アルバイトやサークルに追われて勉強ができない、隙間時間についていってしまふなどの悩みも多く聞かれました。高校生とは違う勉強内容に戸惑いを見せる学生もいたように思います。ただ、友人関係なども広がり、学生生活は楽しいと言ってくれる学生が大半で積極的に学校行事などでも頑張ってくれている姿は頼もしく思います。

これからも保護者の方々とともに充実した大学生活が送れるようにサポートしていきたく思いますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



健康栄養学科2回生担任

永澤 健

2回生になり、すっかり大学生活にも慣れて充実した毎日を送っているようです。授業内容がさらに高度になり、学習内容と課題が増え、課題やレポート作成に追われることが多くなっています。そんな中でも、学生たちはしっかりと学習に取り組み、力をつけています。気を緩めずに後期からも「学習時間の確保」を大切にしてください。卒業生に聞くと、大学生活の中で自分の時間が多く取れたのは2回生のときだったようです。大学生活の中間に当たる2回生の時期に、自分の時間を有効に活用して、学生時代にしかできない経験を積んでくれたらと思っています。この時期に進路についてじっくり考えることも必要です。今後とも保護者の方々のご支援をよろしくお願いいたします。



健康栄養学科2回生担任

松村 羊子

2回生となり、これまでの一年間の過ぎる速さを実感し、学生生活の中で何ができたか、何をしたいか、手探り状態の学生が多い印象です。大学ではほとんどの学生が楽しく過ごしているようですが、その一方今後の進路などには不安を抱えている様子が見えかけました。様々な人と関わりあって、いろんな可能性、選択肢があることを知ってほしいと願っています。さらに実りある学生生活が送れるように、サポートできればと思っています。



健康栄養学科2回生担任

米田 武志

2回生となり、忙しい中にも充実した学生生活を送っている様子です。多くの学生は学業、クラブ活動、アルバイトなど、スケジュールを管理できるようになり大学生活のペースを掴めてきています。一方、緊張感が薄れて成績やモチベーションが下降気味となっている学生も見受けられます。これからの頑張りに期待したいと思います。後期からは専門科目の授業も増えてますます忙しくなりますが、より充実した学生生活が送れるようにサポートしていききたいと思います。



健康栄養学科 3 年生担任

上地 加容子

大学生活も 3 年目を迎え、大学生活が楽しいという声が多く聞かれ、充実した毎日を送っている様子です。夏休みには臨地実習が始まり、インターンシップへ参加する学生も多く、進路について真剣に考え始めているようです。じっくり話を聞きながら、適切なアドバイスができるよう心掛けたいと思っています。実習等は、緊張や暑さで疲れて帰宅することが充分予想されますので、体調を崩さないように、保護者の皆様にもサポートをよろしくお願いいたします。



健康栄養学科 3 年生担任

柴田 満

3 年生になり、専門科目の中でも基礎科目中心から応用科目への履修が増え、復習の大切さを感じている学生が多くみられました。この夏は、学外の施設に実習に行ったり、就職活動に向けてのインターンシップに参加したりと、緊張から疲れがでている学生も多くいると思います。学科教員で精一杯サポートさせていただきますので、ご家庭でのサポートもどうぞよろしくお願いいたします。



健康栄養学科 3 年生担任

熊本 登司子

3 年生になり、授業も応用的な実験・実習がぐっと増え、友人同士助け合いながら日々忙しく取り組んでいるようです。この夏から学外実習がスタートしていますが、今まで学習してきたことを実際に現場で確認し、理解を深める良い機会です。不安なことも多いと思いますが、よい経験をしてこれからの進路にも役立ててくれればと思っております。ひとりひとりが充実した日々を過ごすことができますようサポートしてまいりますので、今後とも温かい見守りとご支援をよろしくお願いいたします。



人間環境デザイン学科 1 年生担任

加藤 信喜

入学して間もない宿泊研修の時は猫を被っていた？と思うぐらい最近の彼女らは明るく元気です。ホッとひと安心と思いたいところですが、まだまだ油断は禁物です。5 月から始めた個人面談も約 1 カ月半で全員終了しました。その中で悩みを抱えている学生も少なからずいたからです。我々の年代ではとるに足らない事に思えても若い人にとっては大問題ということもある訳です。若い時は自信と不安が交錯したアンビバレントで複雑な心情を持ちがちです。とはいっても何も問題はありません。大丈夫。今後とも十分なサポートをしていきたいと思います。



人間環境デザイン学科 1 年生担任

李 沅貞

今年の 1 年生 2 組 33 名では建築コース志望者が目立ちます。また、公務員志望の学生も多く、今までは少し違った進路希望者が多い様子です。これから 2 回生のコース分けに伴い、専門科目が増え、インターンシップの参加、資格試験に備えるなど、少し気の早い話になりますが、就職活動に向け、少しずつ成長していくと思います。大学生になって初めての夏休みはそれぞれの進路について少し考えてみる貴重な時間になりますよう、

ご家庭におかれましては、ご指導ご支援のほどお願いいたします。

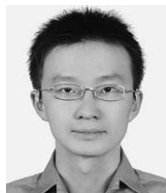


人間環境デザイン学科 2 年生担任

清水 裕子

去年、あどけなかった学生達も、大学生活に慣れ、面談の会話からは「自信」や将来に対する「希望」を垣間見ることができました。特に、部活やアルバイトと勉学のバランスを上手に保って、両立できている学生が大半を占め、担任として、心強く思います。

中には、学外で実施されるデザインコンペに積極的に挑もうと健闘する者や、友人と建築旅行を計画し、自己研鑽に努める者など、自ら考え大学の枠を超えた専門知識の取得に、果敢に取り組む学生が増えており、彼らの今後の成長を大変楽しみにしています。



人間環境デザイン学科 2 年生担任

陳 建中

2 年生になって、より積極に取り組む姿が見られました。設計演習などの課題のため、大学の製図室で頑張る時間が増えました。仲間たちと共に頑張る、互いに励ましたことは、大切な学習プロセスであり、貴重な思い出となると思います。建築設計演習の講評会では、皆さんが真面目に提案を考えて、全力を尽くして発表しました。興味が深い居住空間の図面や模型が作られて、優れた提案もありました。今後、学生たちの成長が楽しみです。

現代教育学科
学校教育コース 1 年生担任
(1 年生担任代表)**西端 律子**

入学式から早 4 か月が経ちました。宿泊研修、小学校見学、先輩のお話、救命救急講習等初年次教育の中で、大学生としての自覚や教員になるという決意を見ることができるようになりました。また、多くの学生が、クラブ、サークル、ボランティア等の課外活動に参加し、人間関係を広げています。2 年生以降の夏休みは実習が多く、最初で最後の「謳歌できる夏休み」になるでしょう。後期に一回り大きくなった 1 年生諸君に会えることを楽しみにしています。

現代教育学科
学校教育コース 1 年生担任
(1 年生学校教育コース担任代表)**八木 義仁**

入学当初は見知らぬ人であった人が、前期が終わろうとしている今では何年来の友人というような関係になってきたようです。大学生らしくなってきました。また、学修だけでなく、サークルやボランティアなどにも関心をふくらませているようです。このように、大学生活に慣れることはとてもよいことです。しかし、生活が崩れてくるのもこの時期です。時には励まし、時には助言して、学生たちのめざすところに向けて、ともに歩んでいきたいと思います。

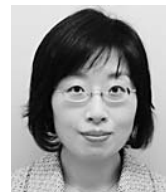
現代教育学科
学校教育コース 1 年生担任**稲本 正法**

個人面談では多くの学生から「授業にも慣れ、大学生活は楽しい。」「クラスの雰囲気もよい。」という声を聞くことができました。一人一人が自分なりに落ちつける

友人や居場所を見つけているようです。アルバイトやサークル活動、そして授業と両手をいっぱい広げて大学生活を楽しんでいます。無理のないように自分の将来の夢に向かって進んでいけるよう見守っていききたいと思います。保護者の皆様のサポートもよろしくお願いいたします。

現代教育学科
学校教育コース 1 年生担任**西尾 祐美子**

面談では皆が「うちのクラス、本当に仲良いんです！」と語り、励まし合いながら少しずつ大学生活に慣れてきたようです。進路について尋ねると、既に教員に希望を定める学生も、「キャリア形成セミナー」で聞いた先輩の体験談をもとに迷う学生もいました。各々アルバイトやボランティアなど色々な経験を積み始めていますが、学生生活を楽しみつつ、確かな力を身につけられるようサポートしていきます。ご家庭でも一人一人が夢を叶えられるよう、さまざまな面から応援をお願いします。

現代教育学科
学校教育コース 1 年生担任**宮村 裕子**

担任面談で「大学生になつてどう？」と尋ねると、多くの学生が「白浜の宿泊研修で仲良くなれて嬉しかった」「大学生活に慣れてきた」と答えてくれました。高校との学び方の違いに戸惑いつつ目の前の宿題をまず片付けている様子ですが、短期語学留学に興味を示す学生もいました。すでに複数のアルバイトを掛け持ちして多忙感のある学生もあり、体調や時間の管理についてアドバイスしたケースもあります。充実した学生生活を送れるよう担任として見守っていきますので、どうかご家庭でも引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

現代教育学科
学校教育コース 1 年生担任**Randy Muth**

団結心が強く、グループ活動を非常に円滑に行っています。また、やりたいことを明確に示しており、目標を果たしたいという強い意思を見せています。多様な資格を取得したいという学生が多く、この大志を抱くことは非常に良いことですが、取得するための大変さを学生が理解しているか、また、せっかくの大学生の生活を充実できず、大切な時間を逃さないかと心配しています。学生の支えとなれるよう、全力を尽くしたいと思います。お子様は立派な大人及び社会人になるための重要な最後の段階に入っています。ここまで成長できたのは保護者の愛情や努力のたまものであり、さらに今、またその愛情が必要とされています。大学での活動に関心を持って頂きたいと思います。保護者からの愛情ある声かけはお子様にとって不可欠のもので、将来に対して希望と不安を抱いているお子様を励まして頂きたいと思います。

現代教育学科
幼児教育コース 1 年生担任
(1 年生幼児教育コース代表)**永渕 泰一郎**

学生との面談では、大学を楽しむ声がけきました。特徴的だったのは、授業についての感想です。「高校まではしなかった勉強で、やらされていた感覚が強かった。大学では学びたいものがあるので、授業も楽しい。」という学生が何人もいました。学生が初めての試験を終え大学にも少し慣れてくると思います。後期から

授業も増えてきますが、ご家庭でも様子を見ていただき、あたたかなまなざしとサポートをどうぞよろしくお願いいたします。



現代教育学科
幼児教育コース 1 年生担任

小林 佐知子

あっという間に半年が過ぎましたね。入学当初は期待と不安が入り混じった表情だった 1 回生のみなさん。時間の経過とともに笑顔が増え、生き生きと自分らしく過ごしていて、とてもうれしく頼もしく感じています。これから卒業までの時間は、きっともっと早く過ぎていくと思います。失敗を恐れず、色々なことにどんどんチャレンジして、自分がやりたいこと、自分にしかできないことを見つけてください。これからも、明るく前向きなみなさんの挑戦を応援したいと思っています。



現代教育学科
幼児教育コース 1 年生担任

辰巳 智則

4 月には緊張の面持ちで入学した学生たちも、今や畿央大学の一員として懸命に励んでいます。入学当初から、卒業後の進路を強く意識している学生、大学での学びを通して進路決定をしていく学生等様々ですが、ここで出会った仲間と刺激し合いながら、自分を育んでほしいと願っています。本学は、学生と教職員の距離が非常に近いのが特徴であり、この環境を十分に活かしてほしいと思います。よろしくお願いいたします。



現代教育学科
保健教育コース 1 年生担任
(1 年生保健教育コース代表)

高田 恵美子

保健教育コースのみなさんは、「砂の造形活動」等の新生入生宿泊研修でコミュニケーションを深め、仲間と助け合いながら大学生活を楽しんでいるようです。面談では、養護教諭になるための学習やボランティア活動、実習、教員採用試験等について具体的な質問がありました。進路について見通しをもって活動しようとしている姿勢が伺えます。一方で、アルバイトやサークル活動、通学時間など多忙な生活を送っている学生も多く、健康面が心配です。保護者の皆様と共に見守り支援していききたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任
(2 年生学校教育コース担任代表)

竹下 幸男

2 回生の担任面談を通して、それぞれが自分の目標に向かってコツコツと努力を続けている様子を聞くことができて嬉しく感じました。1 回生の時から、将来の目標が変わらない人もいれば、大学での 1 年間の勉強や経験を通して、別の可能性を考える人もいます。迷いなく目標を語る人もいれば、将来の自分像に迷いを感じている人もいます。しかし、それぞれが、自分なりに真剣に考えている様子が話から伝わってきました。



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任

島 恒生

早いもので、入学から 1 年半です。自分の将来に向けて挑戦を重ね、力を付けている人がいる一方で、油断や後回

しの癖からまだ抜け出ることのできない人もいます。大きな目標と小さなステップが大事です。焦らず、そして、諦めず、自分の弱さに打ち克つ「自分」になりましょう。二回生の後半は、ゼミの所属も決まります。自分が学びたいこと、自分がやりたい仕事をしっかり考えましょう。「自分」を大切に、焦らず、そして、諦めず！



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任

大久保 賢一

あっという間に 1 年が過ぎ、気がつけばもう 2 年生も半分が終わりました。そろそろ進路に関する悩みが現実味を帯び始める時期かもしれません。進路について検討するためには、その職業について、そして自分自身についてよく知ることが前提となります。必要なのはすばり「多様な経験」です。大学の授業できちんと学ぶことはもちろんのこと、様々なボランティアやインターンなどにも積極的に参加するよう背中を押してあげていただければと思います。



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任

塩原 佳典

2 年生のみなさんは、1 年間の学修を経て、確かに成長しています。私の講義では、毎回の内容をまとめる要約レポートを課しています。昨年度と今年度のレポートを見比べますと、言葉選びや日本語表現が向上していることがわかり、嬉しく思っています。一方で前期の面談では、自身の学修テーマや進路などを明確に定められていない様子も見受けられました。迷いが生じることも成長のきざしです。学生生活をさらに充実させてほしいと願っています。



現代教育学科
学校教育コース 2 年生担任

生野 勝彦

後輩もでき部活動やサークルに積極的に取り組んでいる学生が多くなります。また、ボランティアやアルバイトなど大学外での活動にも精力的に励んでいる姿が見られます。しかしながら、ぼちぼち進路をしっかりと考える時期が来ています。入学当初の目標から今一度、進路の方向性を本人と共に考え、アドバイスをして頂き、励ましていただきますようお願いいたします。



現代教育学科
幼児教育コース 2 年生担任
(2 年生担任代表)

西尾 正寛

1 年生後期の成績が向上きの学生が多く、「よかったね」「安心しました」とうれしいやり取りが出来ました。幼児教育が小学校が決められずに入学してきた学生からは「方向性が決まった」という声も聞き、頼もしく感じています。企業を考え始めた学生には自分が「選ぶ」進路を大事にと伝えました。多くの免許を取ろうとすると密度の高い時間割が続き、疲れる学生も出てきます。必要に応じて学生生活を見直す機会ももって下さるようお願いいたします。



現代教育学科
幼児教育コース 2 年生担任
(2 年生幼児教育コース代表)

中村 恵

前期の面談では、多くの学生が、それぞれが興味のある部活動やサークル活動に積極的に参加している様子を伺うことができました。また、大学で 1 年間学んだことで将来像が見え始めた人も増えてきました。卒業までの間、学生一人ひとりが自らの目標に向かって、確実に自分の力で歩んでいけるように支援していきたいと考えております。保護者の皆様には、今後も温かなまなざしとサポートをお願いできたらありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



現代教育学科
幼児教育コース 2 年生担任

衛藤 晶子

2 回生の面談では、大学にも慣れ成長した姿に出会うことができました。幼児教育コースのほとんどの学生がこの夏に保育実習に行くため、それに向けての授業や課題が多く、「大変」と言いながらも、サークルやボランティアなどに参加し、充実した大学生活を送っているようでした。また初めての実習に不安とともに期待もっている様子も伺えました。よりよい成長に向けて、保護者の皆様と共にサポートしていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



現代教育学科
幼児教育コース 2 年生担任

石川 裕之

2 回生になり、大部分の学生さんが自らの希望進路を定めることができています。ただ気になるのは、希望進路に必須でない免許・資格まで「とりあえず取っておこう」とすることで、結果としてオーバーワークに陥っている学生さんが複数名見受けられたことです。希望進路と取得免許・資格のマッチングについて、ご家庭で一度じっくり話し合っていたければ幸いです。その際、疑問点や不安な点などありましたらお気軽に大学や担任までご連絡ください。



現代教育学科
保健教育コース 2 年生担任
(2 年生保健教育コース代表)

橋本 節子

前期の面談では、目的意識を持った学習や学生生活への抱負が語られ、学びの意欲の高さを感じ頼もしく思えました。また、授業のグループワークや実習では、サークル活動、ボランティア活動、部活動、自主研修で培った力を発揮され、共に高めあっていく姿を拝見し、今後の成長を楽しみにしております。自らの目標を達成されますよう、保護者の皆様のご協力をいただきながら、支援していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

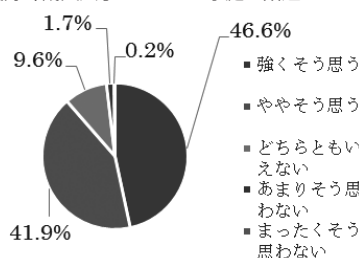


アンケートへのご協力ありがとうございました。

今年度も保護者アンケートを実施させていただきました。お忙しい中ご協力いただきました保護者の皆様には心より御礼申し上げます。今年度のアンケート結果の特徴と、皆様からお寄せいただいた質問で多かったものをまとめさせていただきます。

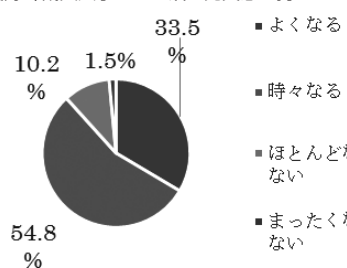
「畿央大学のことが家庭で話題になりますか」という設問に対して、「よく話題になる」「時々話題になる」と回答された方は、昨年87.7%からさらにアップし88.3%に達しました。家庭で大学のことが話題となることが多く、非常にありがたく存じます。

（質問5）畿央大学について、家庭で話題になるか？



続いて、「学生は畿央大学での生活に充実感を持っていると思いますか」という設問について「強く思う」と回答された方は、昨年の39.7%から46.6%という結果となりました。前年と比較すると6.9%上昇し、半数近くの方が高い充実感を感じておられる結果となりました。

（質問6）畿央大学での生活に充実感を持っているか？

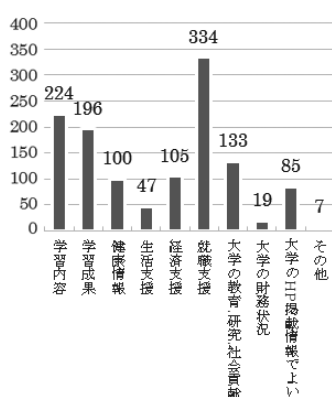


これらの結果は、学生とご家庭そして大学との関係が非常に良好であることを示していると思われます。学生の夢の実現をサポートしていくために一層良い関係を深められるよう努めて参ります。

次に保護者の皆様から畿央大学に寄せられる期待や要望について一部ご紹介致します。「学生に関連して知らせてほしい情報（複数回答）」について伺ったところ、就職支援に関する情報を求められる声が多く見受けられました。

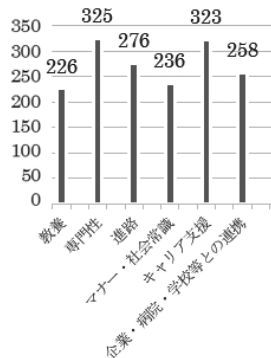
また、「畿央大学が今以上に充実させるべき点（複数回答）」について伺ったところ、専門性を身につけさせる教育やキャリア支援（就職活動・資格取得等）について今以上に充実を求められていることがわかりました。資格取得をめざす学生が多い中、大

（質問13-②）学生に関連して知らせてほしい情報【複数回答】



学でより高い専門性を身につけ、資格取得・就職へつなげてほしいとお考えいただいている保護者様が多くおられることが伺え、今後の支援につなげていきたいと思ひます。それら以外にも、進路を考えさせるキャリア教育や企業・病院・各種学校等との連携について充実をあげておられる保護者様が多く、さらなる充実をさせてまいります。

（質問12）畿央大学が今以上に充実させるべき点【複数回答】



畿央大学では、保護者の皆様から頂戴致しましたお声を真摯に捉え、より良い大学運営をめざすとともに、日々の学生サポートに取り組んで参ります。

保護者の皆様におかれましては引き続き本学の教育活動に対しご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以下には、保護者の皆様からの質問事項とその回答について、一部ご紹介致します。

Q 保健師をめざしていますが就職があるかどうか心配です。保健師を含めた就職指導について、よろしく願いいたします。

A 保健師（行政あるいは産業）の求人や募集要項については、「求人検索NAVI」に登録するとともに、看護医療学科の担当教員と情報を共有し、学生に情報を提供しています。また、保健師を目指す学生には、試験対策講座や模擬試験、エントリーシートの添削、面接対策を行っています。

Q 一般企業への就職をめざしています。自分で就職先は見つけてくると思いますが、保護者として心配もあります。本人へはアドバイスをしていただいているようですが、保護者として注意すべきポイントなどがありましたら教えてください。

A 学生は就活に大きなストレスを感じています。そのため、保護者の皆さまにも就職活動に関心を持って、「あなたを心配している」「応援している」ということを伝え、「心の支え」になって見守っていただきたいです。学生の意思を頭ごなしに否定したり、一方的な押しつけ、突き放すことや、兄弟や親戚との比較はしないようお願いいたします。また、大学の行事として、7月に「保護者懇談会」、10月に「保護者説明会」を開催し、大学生活や進路について各種相談を受け付けています。ぜひご参加ください。

Q 大学での課題・レポートが多すぎるといことを言っています。大学としてどのように考えられているのでしょうか。

A 本学に在籍する学生の多くが理学療法士・看護師や管理栄養士などの国家試験受験、あるいは教員免許状や保育士資格などの取得を目指しています。

そうした学生の夢や目標をサポートし、確実に実現へと結び付けていくために、課題やレポート等によってこまやかに知識の定着をはかっていくことは不可欠と考えています。

時に勉強が厳しいと感じることもあるかもしれませんが、すべては最善の結果を生み出すためとご理解いただけましたら幸いです。

Q 卒業後、つまづいた時に相談に乗ってほしいと思いますが、そのような取り組みはありますか。

A 卒業生からの転職等に関する相談は、キャリアセンターで個別に受け、エントリーシートの添削や面接対策を行っています。卒業後に教員採用試験の合格を目指す方の支援も行っていますので、お気軽にご相談ください。

また本学は、積極的に卒後教育に取り組んでいます。理学療法士、看護師、管理栄養士、建築士、教員、保育士などの専門職で活躍する卒業生たちが各分野の最先端の知識・技術を習得するために、あるいは社会人としての教養を高めるための教育を生涯にわたって提供したいと考えています。

同窓会主催の勉強会やホームカミングデーなどにも年間500名をこえる卒業生が参加しています。大学に戻ってくる機会が豊富にありますので、積極的にご活用いただければ幸いです。

第17回 畿央祭

2019年

10月19日(土) 10:00~17:00

20日(日) 10:00~16:00

つながり

テーマ： 繋

今年の畿央祭のテーマは「繋」です。

このテーマには、畿央祭を通じてクラス、学科、学年を超えて繋がり、その繋がりがいつかまた別の場所で何かが生まれるきっかけになればという願いを込めています。また、去年のテーマである掌を受け、畿央生が手を取り合って繋がり、輪を作って、2019年度の畿央祭を作り上げ、次の畿央祭に繋げていきたいという意味を込めています。

ぜひ、お越しください!!

第17回畿央祭実行委員会



授業日カレンダー

注：補講はふだんの授業曜日・時限に関わりなく6時限目や土曜日、祝日などに実施される場合があります。

注：休業日(日曜日・授業のない祝日)の事務取扱は行っておりません。

注：※印のついた日はキャンパスに入ることはできません。■は休講日

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	1火② 履修登録変更期切	1金⑤	1日	1水 元日 ※	1土⑮	1日
2月	2水②	2土⑥	2月⑨	2木 ※	2日 最終大学院入試	2月
3火	3木②	3日 祝日(文化の日) ※	3火⑨	3金 ※	3月⑮終	3火
4水	4金②	4月 振替休日	4水⑩	4土	4火⑮授	4水
5木	5土③	5火⑥	5木 補講日	5日	5水⑮業	5木
6金	6日	6水⑦ 履修取消期間	6金⑩	6月⑬	6木⑮期	6金
7土	7月③	7木⑦	7土⑩	7火⑬	7金⑮開	7土
8日	8火③	8金⑥開	8日	8水⑬	8土⑮	8日
9月	9水③	9土 公募推薦入試	9月⑩	9木⑬	9日	9月
10火	10木③	10日 公募推薦入試	10火⑩	10金⑬	10月	10火 一般入試
11水	11金③	11月⑥	11水⑪	11土⑬	11火 追試(休業日)	11水
12木	12土④	12火⑦	12木⑪	12日	12水 再試期間	12木 卒業式リハーサル
13金	13日 後期オリエンテーション	13水⑧	13金⑪	13月 成人の日	13木	13金 卒業式
14土	14月④ 授業日(体育の日)	14木⑧	14土⑪	14火⑭	14金	14土
15日	15火④	15金⑦	15日	15水⑭	15土	15日
16月	16水④ 敬老の日	16土⑦	16月⑪	16木⑭	16日	16月
17火	17木④	17日 公募推薦入試 専攻科入試	17火⑪	17金 休講日(試験会場設置)	17月	17火
18水	18金 畿央祭準備 後期学籍納入期	18月⑦	18水⑫	18土 大学入試センター試験 ※	18火	18水
19木	19土 畿央祭	19火 補講日	19木⑫	19日 大学入試センター試験 ※	19水 一般入試	19木
20金	20日 畿央祭	20水 補講日	20金⑫	20月⑭	20木	20金 春分の日
21土	21月① 授業開始	21木⑨	21土⑫	21火 補講日	21金	21土
22日	22火 AO・大学院 専攻科入試	22月⑧ 国民の祝日	22日	22水 一般入試	22土	22日
23月	23水⑤ 授業日(秋分の日)	23土⑧ 授業日(勤労感謝の日)	23月⑫	23木 一般入試	23日 天皇誕生日	23月 後期成績・前期学籍納入票送付予定
24火	24木⑤	24日	24火⑫	24金⑭	24月 振替休日	24火
25水	25金④	25月⑧	25水 補講日	25土⑭ 一般入試	25火	25水
26木	26土⑤ 前期卒業式	26火⑧	26木	26日	26水	26木
27金	27日	27水⑨	27金	27月⑮ 最終授業	27木	27金
28土	28月⑤	28木⑩	28土	28火⑮	28金	28土
29日	29火⑤	29金⑨	29日	29水⑮	29土	29日
30月②	30水⑥	30土⑨	30月	30火⑮		30月
	31木⑥		31火	31金⑮		31火

冬木学園へのご支援のお願い

冬木学園では、教育・研究環境の整備及び基金の充実を目的とする募金へのご協力を広く皆様方をお願いをしております。

本学園の取り組みをご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◎ 税額控除の適用について

本学園は、寄付税額控除制度の適用を受けることのできる学校法人として文部科学大臣より証明されています。個人の方が支出した寄付金について、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、以下により算出された額が所得税額から控除されます。

$$(\text{税額控除対象寄付金}(\text{※1}) - 2,000\text{円}) \times 40\% \\ = \text{控除対象額}(\text{※2})$$

※1 総所得額の40%まで

※2 所得税額の25%まで

◎ 寄付のお申込方法

法人事務局総務部(担当：植村・篠本)にお問い合わせ下さい。

TEL：0745-54-1602

E-mail：soumu@kio.ac.jp

